

SIT ステレオパワーアンプ

Proxima SIT-5000

*価格はSIT素子の供給状況により変わる可能性があります。詳しくは[こちら](#)をご覧ください。
(参考旧価格 ¥ 750,000 (税抜))

注目！！ MJ誌 2010/10号に本機の詳細記事が載りました。



本機の概要と特長

「三極管特性で音が良い！」という噂のSIT素子を使ったステレオパワーアンプです。弊社もこのSITを試用してみると、あらためてそのポテンシャルの高さに驚かされ、本機の開発に繋がりました。SITの“凄さ”は、例えば「パワー段をMOS-FET、バイポーラTRからSITに換えただけで音のクリアーさが俄然違ってくる、あるいは電圧増幅用の小型SITもFET以上に素晴らしい」等で、本機は全段（周辺回路は除く）をSITで構成することになりました。

次にSIT素子はなだらかな入出力カーブを描くためにカットオフしにくく、アイドリング電流と比べAクラス動作域が広がることも大きな特長です。本機でもヒートシンクはほんのり暖くなる程度ですが、30W程度までAクラスで動作いたします。また、電荷の蓄積も少なく高速でスイッチングするのでAクラス域を超してもクロスオーバー歪みは微小です。

◎各部材へのこだわり

◆独自開発のスケルトン（外装無し）のC、Rを多用しました。スケルトンパーツはエポキシ等、外装による音の混濁感がありません。さらにニゴリ感を減らすため、電解コンデンサーも総て外皮を剥いて使用しています。電源トランスは電圧変動の小さいカットコア製、配線材は手作り木綿外装7N銅線を使用するなど徹底しています。

信号入出力には金等のメッキ端子と比べ極めて色づきの少ない特殊表面処理ピンジャック、無メッキ高純度銅ターミナルを採用。アナログアンプの音はケースの材質に大きく左右されるため、本機では音の良いウッドパネルを天板、底板に採用しました。

【本機の特長&仕様】

印刷用資料は[こちら](#)

- ◎出力 60W×2 / 8Ω （約30WまでAクラス動作）
- ◎ひずみ率 0.003%以下 （50W / 8Ω）
- ◎定格入力 1Vrms
- ◎入力抵抗値 約50kΩ
- ◎左右別トランス、電源コンデンサーの完全モノラル構造
- ◎通電状態で安全に接続作業ができるSP出力オンオフ・スイッチ付き
- ◎各放熱フィン防振構造
- ◎電源仕様 100V (50, 60Hz)
- ◎消費電流 約100W (無信号時)
- ◎本体寸法 150H×440W×330D
- ◎贅沢な構成ながら、このクラスとしては軽量の合理設計 約13kg

〔S I T素子の供給状況とS I T - 5 0 0 0、 - 7 0 0 0の価格&販売ルートに関して〕 new!

以前、S I Tアンプは“F A Lモデル”としてF A Lを通してのみの販売が許可されておりましたが、これがS I Tアンプ普及の妨げにもなっておりました。2 0 1 3年よりはこの制約が解消されましたので、他のオーディオ商品と同様の販売ルートが確立されました。

(規制緩和のひとつです)

但しS I T素子の供給は現在でも厳しい状況にあり、製品納品まで2～3ヶ月お待ち頂くことがございます。

これは、公には(株) デジタルドメインのみが製造&販売に関わっているためです。

…2013/3現在